

イネ科 ギョウギシバ属

ギョウギシバ (行儀芝)

Cynodon dactylon (L.) Pers.

自生環境

道ばた、河川敷、砂浜 など

原産地

日本在来

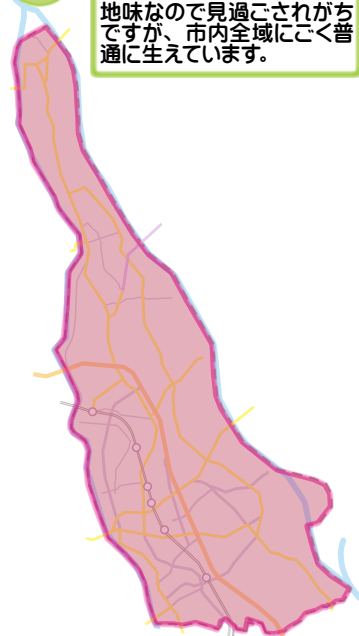
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

地味なので見過ごされがちですが、市内全域にごく普通に生えています。



特徴

- ☆ 日当たりのよい乾燥した場所に多く生える多年草で、茎は地を這いながら、じゅうたんのようになっていきます。地を這う茎の節々から上に向かって花茎がのび、これが 15 ~ 40cm ほどの高さになります。日本のギョウギシバはこのような背が高くなるためか、芝生用のシバにはあまり使われないようです。
- ☆ 花茎につく葉は、規則正しく左右に分かれてつきます。地を這う茎から枝分かれする花茎、そしてそこにつく葉、それぞれが行儀よく整然と並んでつくことから、行儀芝という名がつけられたという説があります。
- ☆ 6~8月頃、花茎の先から穂を出します。花の穂はシバ(ノシバ)のような棒状のものではなく、ススキやメヒシバを小さくしたようなかたちをしています。

ティフトンと同じ仲間

サッカーグラウンドなどの芝生として定番なのがティフトンという種類です。これはアメリカで人工交配によってつくられた栽培種で、アメリカのジョージア州にあるティフトンと言う地名が、名前の由来となっています。ティフトンは分類上はイネ科ギョウギシバ属、つまりギョウギシバの仲間です。いくつかの改良品種があり、ティフトン 419 という種類は国立競技場にも使われています。

株はじゅうたんの
のように広がって、
芝生になる



上から

穂の枝を

下から

花は穂の枝の
裏側に並んでつく



花の穂は
ススキを
小さくした
ようなかたち



葉の長さは
5~8cm。
規則正しく
左右に
分かれてつく



花茎

地を
這う茎

地を這う茎の節々から、
花茎が枝分かれして
立ち上がっていく



しょうすい
小穂

小穂の中
で茶色く
熟した
タネが
透けて
見える

果実期の穂



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

